



暮らしのなかの 視覚文化

(全8回)

視覚文化連続講座シリーズ4 (2023年)

Kyoto Foundation for Visual Culture

この連続講座では、これまで「視覚の文化地図」「視覚文化を横断する」「視覚文化に分け入る」という統一テーマのもとで、毎月一回、専門家をお招きして講座を開講してきました。今回のテーマは「暮らしのなかの視覚文化」です。衣服や料理、和菓子、住居、掛物、置物など、日頃、何気なく接しているモノやコトが帯びている文化的な価値について、ちょっと立ち止まって考えてみようというわけです。面白いですよ。奮ってご参加ください。

開講時間 / 14:00~15:30 ※質疑応答で30分程延長する場合があります。

会場 / **京都新聞文化ホール** (京都新聞社7階)
京都市中京区烏丸通夷川上ル
地下鉄烏丸線・丸太町駅下車7番出口からすぐ

ハートピア京都 (京都府立総合社会福祉会館3階・大会議室)
京都市中京区竹屋町通烏丸東入
地下鉄烏丸線・丸太町駅下車5番出口 (地下鉄連絡通路にて連絡)

定員 / 80名 (随時受け付け)

受講料 / 全8回 8,000円 (税込)

『須田記念 視覚の現場』2冊 (春季号・秋季号) 進呈

※通年受講者席とは別に若干数の聴講生枠を設けます。1講座 (1,200円/税込) のみ聴講ご希望の方は、事務局までお問合せください。

応募方法 / 下記の用紙に必要事項をご記入のうえ、事務局にFAXをするか郵送をしてください。財団ホームページで、「受講申込フォーム」にご記入のうえ、事務局に送信することもできます。また、「受講申込フォーム」(PDF版/Word版) をダウンロードし、記入したものをメール添付/FAX/郵送することもできます。

- 1 **京都新聞文化ホール** ————— 9月9日(土)
絵を装う、暮らしを彩る
——表具からみる住友コレクション
👤 実方葉子 (泉屋博物館学芸部長)
- 2 **京都新聞文化ホール** ————— 10月7日(土)
明治工芸に見る日本人独特の美意識
👤 村田理如 (清水三年坂美術館館長)
- 3 **ハートピア京都** ————— 11月11日(土)
江戸時代のきものにみられる恋模様
👤 河上繁樹 (関西学院大学教授)
- 4 **京都新聞文化ホール** ————— 12月2日(土)
目で味わう日本の料理
👤 熊倉功夫 (MIHO MUSEUM館長
ふじのくに茶の都ミュージアム館長)
- 5 **京都新聞文化ホール** ————— 2024年1月27日(土)
和菓子のデザイン
👤 中山圭子 (虎屋文庫主席研究員、虎屋特別理事)
- 6 **ハートピア京都** ————— 2024年2月17日(土)
暮らしを彩る美人画ポスターの系譜
👤 岸 文和 (同志社大学名誉教授)
- 7 **ハートピア京都** ————— 2024年3月16日(土)
暮らしの中の現代アートとギャラリー
👤 中塚宏行 (美術評論家連盟会員
元大阪府立現代美術センター主任研究員)
- 8 **京都新聞文化ホール(予定)** ————— 2024年4月6日(土)
モダニズム建築と私たちの暮らし
👤 松隈 洋 (神奈川大学教授、京都工芸繊維大学名誉教授
放送大学客員教授)

主催

公益財団法人きょうと視覚文化振興財団
京都新聞

お問合せ

公益財団法人きょうと視覚文化振興財団
〒611-0033 宇治市大久保町上ノ山51-35
TEL/FAX 0774-45-5511
mail info@kyoto-shikakubunka.com
HP https://kyoto-shikakubunka.com

FAXは切らずに送信してください

2023年4月15日作成

「暮らしのなかの視覚文化」受講申込

月 日 申込

| | | | | | |
|----|-----|--|------------------|-------------|---|
| 氏名 | | 連絡先 | TEL 携帯 FAX | 支払い方法 選択 | <input type="checkbox"/> 郵便振替 <input type="checkbox"/> 現金書留 <input type="checkbox"/> 銀行振込 |
| 住所 | 〒 — | きょうと視覚文化振興財団事務局 行 FAX番号 0774-45-5511 | | | |

※ご記入いただいた個人情報は、本件以外の目的で使用することはありません。

1 絵を装う、暮らしを彩る — 表具からみる住友コレクション

- 内容
- 表具の機能と歴史
 - 邸内を彩る掛物の表具
 - 表具を仕立てる一佐竹本
 - 表具師の仕事～総合プロデューサーとしての井口郵優

さなかたようこ
講師 **実方葉子**

1969年兵庫県生まれ。公益財団法人泉屋博物館の日本中国書画の担当学芸員として1997年より勤務、住友家伝来品の調査に取り組む。高麗仏画展、フルーツ&ベジタブルズ展、木島櫻谷展などを企画。



5 和菓子のデザイン

- 内容
- 菓子見本帳の魅力
 - 四季の変化を感じる
 - 古典文学の世界に遊ぶ
 - 見立てを楽しむ

なかやまけいこ
講師 **中山圭子**

東京藝術大学美術学部芸術学卒業。和菓子のデザインの面白さにひかれて、卒論に「和菓子の意匠」を選ぶ。著書に『事典 和菓子の世界 増補改訂版』（岩波書店）、『和菓子のほん』（福音館書店）などがある。



本人に代わりまして「霜紅梅」がご挨拶申し上げます

2 明治工芸に見る日本人独特の美意識

- 内容
- 「粹」とは
 - 「間」— 装飾しない空間
 - 生きものどうしが繰り広げるドラマ

むらた まさゆき
講師 **村田理如**

1950年京都生まれ。清水三年坂美術館館長。出張先のNYのアンティーク店で出会った幕末の印籠をきっかけに、幕末・明治期を中心とする細密工芸を収集。2000年に清水三年坂美術館を開館し、日本が誇る美術工芸品の保存・継承・紹介に努める。



6 暮らしを彩る美人画ポスターの系譜

- 内容
- 広告としての美人画（江戸）
 - 美人画ポスターの諸相（明治から大正へ）
 - 美人画ポスターの批判（1920年代以後）
 - 三越の場合（杉浦非水）

きし ふみかず
講師 **岸 文和**

1950年奈良市生まれ。同志社大学名誉教授。博士（文学）。専門は美学、美術史学、芸術学、視覚文化論。著書に『絵画行為論—浮世絵のプラグマティクス』『江戸の遠近法—浮世絵の視覚』『日本美術を学ぶ人のために』（共編）などがある。



3 江戸時代のきものにみられる恋模様

- 内容
- 「橋」に託された想い
 - きものにみられる橋模様
 - 雁金屋の衣裳図案帳と『御ひいなかた』
 - 及ばぬ恋の物語

かわかみしげき
講師 **河上繁樹**

1956年大阪生まれ。文化庁美術工芸課、京都国立博物館を経て、関西学院大学教授。日本および中国の染織・服飾史を研究。2023年3月に『装いの美術史—織りと染めが彩るす服飾美—』を出版。



7 暮らしの中の現代アートとギャラリー

- 内容
- 現代アートとは？
 - 京阪神・東京のギャラリー事情
 - アートフェアとマーケット
 - コレクターとアートの価値

なかつかひろゆき
講師 **中塚宏行**

1954年大阪生まれ。大阪大学文学部美学科（美術史専攻）卒業。大阪府府民文化振興課、大阪府立現代美術センター主任研究員を経て、現在、美術評論家連盟会員。著作集「美術／漂流」学芸員Nの軌跡1～3巻などがある。



4 目で味わう日本の料理

- 内容
- 絵で見る日本料理の歴史
 - 懐石の献立の流れ
 - 料理の趣向
 - 料理の器

くまくらいさお
講師 **熊倉功夫**

1943年東京生まれ。東京教育大学文学部日本史学科卒業。日本文化史専攻。文学博士。現在、MIHO MUSEUM館長、ふじのくに茶の都ミュージアム館長。著書に『日本料理文化史』『文化としての和食』『熊倉功夫著作集』（全7巻）などがある。



8 モダニズム建築と私たちの暮らし

- 内容
- モダニズム建築とは何か
 - 先駆者ル・コルビュジエとは誰か
 - 弟子の前川國男の求めたもの
 - 現代建築の課題を見つめる

まつくま ひろし
講師 **松隈 洋**

1957年兵庫県生まれ。前川國男建築設計事務所、京都工芸繊維大学教授を経て神奈川大学教授。専門は近代建築史、建築設計方法論など。著書に『建築の前夜 前川國男論』、『ル・コルビュジエから遠く離れて』などがある。



公益財団法人
きょうと視覚文化振興財団

本財団は、京都の洋画家・須田国太郎（1891-1961）の遺族・須田寛氏から、その遺産を須田が目指した日本の美術振興にあててほしいとの申し出があり、2019年11月に、美術研究者を中心に発足しました。その後、2022年8月には公益財団法人に移行し、機関誌の発行、調査研究、連続講座やワークショップの開催、展覧会支援、展覧会企画などの活動を行っています。これらの活動に共鳴し、サポーターとして支援して頂ける会員（友の会会員／フォーラム会員／特別会員）を募集しています。

詳細は財団ホームページをご覧ください



<https://kyoto-shikakubunka.com>